

## ファムの歩みとこれから

委員長あいさつ

女性経営者クラブ・ファム  
委員長 岡部千里

今回、内閣府の事業に応募したきっかけは、これまで6年間、埼玉県の男女共同参画推進センターの公募事業『女性チャレンジ支援事業』での実績を県から国へ広げたい、という思いからです。県の女性チャレンジ支援事業では、「働く女性への応援」「女性起業家の育成」「企業内保育」「ポジティブアクション」等、女性経営者視点ならではの事業を行い、参加者のみならず行政からも高い評価を得、県の施策へ反映させることができました。

そもそも7年前、埼玉県の女性チャレンジ支援事業に応募したのは、女性経営者クラブ・ファムを組織として確かなものにしたい、との思いからでした。行政の公募事業という結果から逃げることのできない事業を自らに課すことで、組織としての成長を促せないか？女性の社会進出を応援する企画を考え、応募し、審査委員会でプロポーザルをする。事

業が決定した後は、チラシを作成して集客し事業開催、事業終了後は総括、県への報告書の作成、そして、成果報告のプレゼンテーション。約1年間、気の抜くことのできない事業を6年間続けてきました。

事業を通じて女性会員が増えたこと、行政とのパイプができたこと、他団体との連携が広がったこと、また、埼玉県の荻野吟子賞や経営士会のビジネスアワード優秀賞をいただくなど、嬉しいことがたくさんありました。しかしながら、今振り返って一番嬉しいことは、女性経営者クラブ・ファムが組織として立派に歩き始めたということです。

女性がやる気になったら凄いですよ！（笑）責任感とその行動のスピード感は素晴らしい。会議で意見が百出しても、最後には必ず結論が出て次の具体的な行動へ移る。段取り力、決断力も素晴らしい。そしてお互いに感謝する気持も。もし、社内で女性を充分活用できていないとしたら…それは、活用する側に問題があるかも？能力に性差はありません。要は個々の能力を発揮する場をどう作るか？ファムの活動を通して学んだことです。

## 【ファムの歩み】

「女性経営者クラブ・ファム」は埼玉中小企業家同友会の活動組織の一つで、女性経営者・経営者夫人76名が在籍する。

## ファムの履歴

- ・1983年「夫人の集い」として発足、会社のNo.2としての経営者夫人が中心となって活動を始めた。
- ・1989年「女性の会」と改称、メンバー構成も女性経営者が増え経営者としての視点での活動にシフトしてきた。
- ・2005年「女性経営者クラブ・ファム」と改称、社会情勢の変化に伴って女性企業家や起業家が多く輩出されるようになり、活動内容も経営課題の解決や男女共同参画、地域とのかかわりなど、生活者の視点へと変化しながら活動を続けている。

## 活動及び受賞の履歴

- ・年度方針に基づいて、女性経営者の経営体験報告例会、経営指針づくりや経営革新、人材育成など経営課題に直



2008年に発刊した『成功する女たち』

- 結したテーマについて学びあい、経営に生かしている。
- ・2005年～2010年、埼玉県の「女性チャレンジ推進団体委託事業」を受託し、行政や地域とも連携しながら子育て支援やワークライフバランスなど、生活者の視点に立った暮らしやすい社会づくりにつながる活動に取り組んできた。
- ・2008年7月、19名の波乱万丈の経営者人生をつづった著書「成功する女たち」を発刊。
- ・2009年2月、埼玉県の「さいたま輝き荻野吟子賞」を受賞。
- ・2010年11月、社団法人日本経営士会の「ビジネス・イノベーション・アワード2010」優秀賞を受賞。
- ・2012年1月、「国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業」を受託し、内閣府、埼玉県、中小企業家同友会全国協議会との共催によるシンポジウム「女性の視点でビジネスに新風を」を開催した。



「さいたま輝き荻野吟子賞」受賞の際 上田知事を囲んで